2019年3月
(March)
第29号

フレンドシップス

FRIENDSHIPS

大安寺国際縁日でミャンマーの国民食(モヒンガー)を振る舞う留学生

奈良市国際交流協会

ご挨拶

奈良市国際交流協会名誉会長
奈良市長　仲川 げん

新緑の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、奈良市政並びに国際交流事業に多大なるご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

奈良市と韓国の慶州市が、1970年に姉妹都市提携を締結して以来、約50年にわたり他国との国際交流の歴史を積み重ねてまいりました。現在は慶州市・トレド市・西安市・ベルサイユ市・キャンベラ市・揚州市の6都市と交流を続けております。

そして、昨年キャンベラ市とは姉妹都市提携25周年を迎え、行政団及びなら燈花会の会を含む市民団が現地を訪問しました。なら燈花会の会による学校訪問では、奈良の夏の風物詩である“なら燈花会”の様子を動画等で紹介するなど、日本語を学習している生徒と交流を図りました。また、キャンベラ奈良平和公園でのキャンドルフェスティバルでは、持参した専用カップとロウソクなど各1,000個を使用して、両市を代表する動物である鹿やカンガルーのデザインを描くなど、姉妹都市交流25周年を盛大に祝い合いました。

自身が育った環境以外の文化や生活に触れる国際交流では、共通する『言葉』はコミュニケーションを図る上で大切なツールですが、最も重要かといえば決してそうではございません。

国際交流で言葉よりも大切なこと、それは「交流したい」と思う気持ちであります。交流したいという気持ちは、異文化を理解しようとする積極性、尊敬の気持ちやグローバルな視点などを育みます。これらの思いを強く持ち続ければ、国境の壁を取り除き、「日本人」と「外国人」が触れ合うのではなく、「人」と「人」とが触れ合うようになると私は思います。そんな人と人とが触れ合える平和なまちを築き上げていく所存でございます。

最後になりますが、会員の皆様におかれましては、日々ご協力を賜っておりますことに改めて感謝を申し上げますとともに、奈良市国際交流協会と奈良市のさらなる発展のため、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、今後ますますのご健勝とご多幸を祈念してご挨拶といたします。

奈良市国際交流協会会員の皆様へ

奈良市国際交流協会
会長　辻井 昭雄

桜を愛でる行楽シーズンも終え、今年も新茶の香りが漂う季節となりましたが、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

今年は20ヶ国・地域首脳会議（G20）、ラグビーワールドカップが開催され、来年2020年には東京オリンピック・パラリンピックが、国内では1964年以来56年ぶり2回目として開催され、さらに、2025年には『いのち輝く未来社会のデザイン』というテーマで大阪万博も開催されます。人工知能（AI）や仮想現実（VR）など21世紀の最先端技術を活用した医療や健康、スポーツ、娯楽などを一堂に会した未来像が示されることになり、東京オリンピック同様、世界中から私たちの想像を超える多くの観光客が訪れることになるでしょう。

しかし、世界に目を向ければ喜ばしいことばかりではありません。諸外国との領土問題やテロリストによる活動など、また、紛争や暴力、迫害により世界で移動を強いられた難民の数は毎年増加しており、世の中は日々激変しております。

目まぐるしく変わる世界情勢の中で、私たちはどのような交流を果たすことができるのでしょうか。国際交流事業とは、大きく分けて『姉妹都市を含む外国都市との交流』『自治体内に居住する外国人との交流』の二つになります。そして、外国人材受入れ拡大法案が可決したことから、日本で働こうと夢見る彼らは、特に後者を望むことになるでしょう。

住み慣れた土地を離れ、他府県へ転勤する日本人でさえ心細く感じますが、国を越え家族と離れ訪日する彼らの心情は、私たちの想像をはるかに上回るものだと察することができます。その不安要素を少しでも取り除くためには、温和丁寧なおもてなしの心を持って彼らを迎え入れ、継続して触れ合い寄り添うことではないでしょうか。これらを踏まえ、知識や経験が豊富な皆様からのご協力を賜りながら、これまでの国際交流活動を継続し、さらに発展させていきたいと思います。

終わりに臨み、当協会の活動が世界各国の都市との友好交流の一助となり、世界的な友好の輪が広がっていくことを心から念願いたしますとともに、会員の皆様にご活躍とご健勝を祈念いたしまして、挨拶といたします。

NaFu!スリランカチャリティーコンサート

（2018年5月18日・20日）

2004年スマトラ沖地震以降、奈良市在住のスリランカ人サマン氏の呼び掛けで支援活動が始まり、実際に現地を訪問し調査をしました。現状は、日本の便利な生活とのギャップが大きく、何らかの支援を始める検討を思案しました。現地窓口ダルマアショカ寺院（幼稚園併設）の長老ダンミカ僧侶が現地の窓口となり、国際協力活動が始まりました。

高価なものとして手に入らない眼鏡に着目し、10,000個の眼鏡を船便や現地を訪れた際に贈呈しました。また、文具や生活必需品も送ることで、スリランカ－奈良の市民レベルの交流の輪が確実に拡がるようになりました。

そして、27年間の内戦を経て荒れ果てた地域の水事情の現状を知ることで、第一基目の井戸を贈呈することに繋がりました。井戸を贈呈した際、現地では「まるで夢のよう!」「飲める水が有り、不自由が無く嬉しいとても嬉しい!」など、心からの感謝の言葉を聞くことが出来ました。現在は2020年に二基目の井戸を贈るため活動を継続中であります。

5月のチャリティーコンサートでは募金活動を行い、井戸プロジェクトはあと一歩のところまできています。隣人を思う気持ちと同様に、世界の困っている場所を訪ねてふれあうNaFu!慈善活動。小さな助け合い運動が大きな奇跡を! ぜひご協力をお願いいたします。

「寄稿者:国際交流ならふれあいの会（Nafu!）理事長　野原 純子」

NaFu!スリランカチャリティーコンサート

コンサートでスリランカの現状を伝え、支援をお願いするダンミカ氏

一基目の井戸贈呈に喜ぶ子供たち

一基目井戸贈呈式

慶州市卓球協会を迎えて

（2018年6月29日）

平成30年6月29日に奈良市卓球協会は慶州市卓球協会の全晋澤会長以下16名を迎えて交流会を持ちました。もともと両協会は、1993年9月に姉妹関係を結び、親しく交流を続けてきました。しかし奈良市、慶州市、西安市の間で実施されていた姉妹3都市親善体育大会が開かれなくなり、交流が途絶えていましたが、今回8年ぶりに交流を持つ機会を得ました。慶州側16名中8名の方は交流経験のある方でした。

来寧に先立ち、奈良市観光戦略課からは韓国語の観光パンフレット一式を用意していただいていました。6月28日の来日の午後から長谷寺を観光され、翌29日、午前中親善試合を行いました。今回、女性は5名来られましたが、うち1名は、もとナショナルチームの選手です。慶州では60歳以上の人は、ほとんどがラージボール卓球をされます。今回は3名の方がラージボールで試合を行いました。試合は勝利を目指しつつも、和やかな雰囲気の中で行われ、まさに親善大会にふさわしいものでした。

慶州市との交流卓球～その1～

午後からは興福寺国宝館、東大寺大仏殿、春日大社を巡り、奈良の誇る世界遺産を見てもらいました。半数の方は奈良が、初めてでしたので新鮮味があったと思います。

夕方からは歓迎晩さん会を開催し、奈良側もほぼ同数が参加しました。奈良側の半数以上は慶州と交流経験があり、再会を喜びあい大いに盛り上がりました。これからも、せっかく根付いた国際交流の友情を何らかの形で継続し、深められれば幸いと、再会を約束して握手を交わしました。

【寄稿者:奈良市卓球協会 会長　尼崎勝己】

慶州市との交流卓球～その2～

姉妹都市 奈良市・慶州市 親善卓球交流会

2018年「大安寺国際縁日」－道慈律師帰朝1300年記念－

(2018年11月3日)

第9回国際文化交流イベント「大安寺国際縁日」を開催しました。飛鳥時代から奈良時代を通じて国の筆頭寺院であった大安寺は、遣唐使と共に入唐僧や渡来僧が往来する国際文化交流と学問の拠点として役割を担いました。その歴史的・文化的意義を背景にして県下の留学生など若者が中心になって、各国の伝統文化を紹介。地域及び世代を越えて多くの人が集まり、多様性の理解と交流を深める未来志向の国際文化交流イベントを開催しました。

2018年の「大安寺国際縁日」は、奈良時代の702年に遣唐使と共に入唐し、718年に帰朝後、大安寺を造立して国際文化交流と仏教研究の拠点を築いた道慈律師の功績を因んで－道慈律師帰朝1300年記念－をサブタイトルとしました。

各国留学生及び民間団体による民族音楽・舞踊などの文化紹介や、屋台による食文化を紹介しました。また、今回新たに、野点茶会やドイツ・ボートゲーム、瞑想、墨画の各ワークショップによる文化体験も行いました。

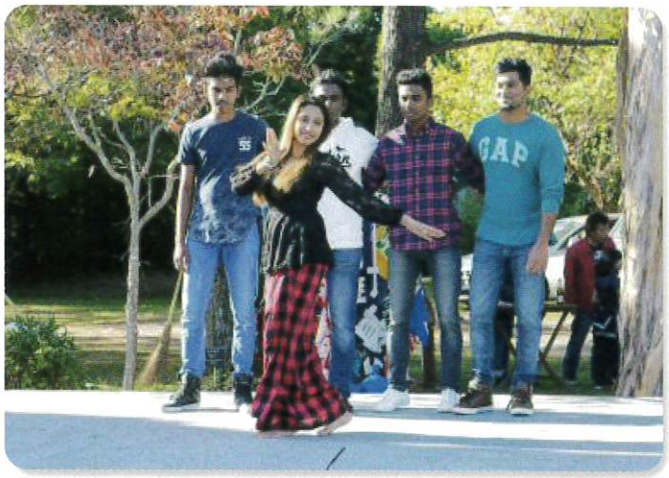
当日は好天に恵まれ、総勢10ヶ国（インドネシア・スリランカ・ベトナム・ミャンマー・中国・ドイツ・インド・タイ・アメリカ・日本）が参加して、地域や年齢を越えた約1,100人もの来場者で賑わいました。

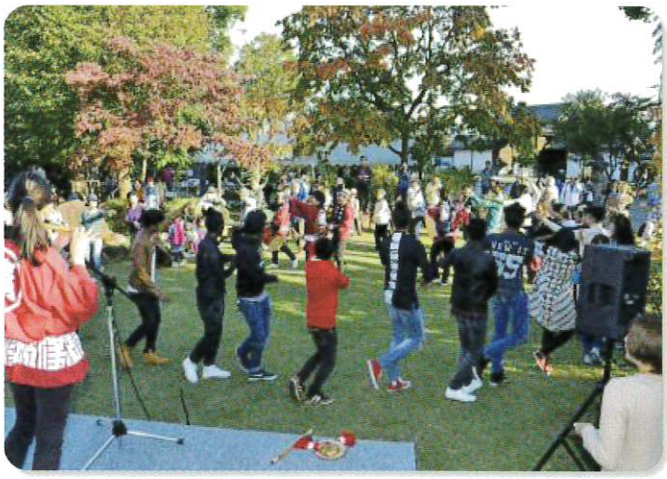
国々によって伝統文化や習慣の違いはありますが、その多様性を知ることにより、お互いの理解が深まることを改めて考えさせられました。

「寄稿者:Nara Stag Club 理事長　小林 徹」

ベトナム風お好み焼き(バインセオ)

インドネシア風今川焼(マルタバ)を調理する留学生


スリランカ音楽に乗って踊る留学生


みんなで踊る「大安寺国際音頭」

中国古典音楽演奏

インドネシアフェスタ in NARA

（2018年12月2日）

2018年12月2日（日）、奈良市中部公民館で『インドネシアフェスタ in NARA』を、在大阪インドネシア共和国総領事館、並びに、奈良市国際交流協会の支援の下、「日本・インドネシア友好協会奈良」の主催で開催しました。

2018年は、日本とインドネシアの国交樹立60周年に当たり、同時に当友好協会設立30周年の節目の年でもありました。

『インドネシアフェスタ in NARA』は、当友好協会設立30周年記念行事として実施したものです。

第一部の開会セレモニーでは、ミルザ・ヌールヒダヤット、インドネシア共和国総領事、並びに、仲川げん、奈良市長を来賓に迎えご祝辞を頂きました。奈良市とインドネシアとの絆が一層深まっていくことを実感しました。

第二部のアトラクションでは、「ハーモニカ演奏によるインドネシアの歌」、「インドネシア舞踏」、「コーラスグループによるインドネシアの歌」、「アンクルン(注1)演奏」等を通してインドネシアの伝統文化、芸能を楽しんで頂きました。二部の終わりには、観客全員一人ひとりがアンクルンを持ち、鳴らし方を練習し、全員で「ふるさと」を体験演奏しました。参加者からは、「アンクルンの美しい音色に感動した」との感想が聞かれました。

最後には、インドネシア総領事館から提供して頂いた「インドネシア往復航空券」の抽選会で大いに盛り上がる中、会を閉じることが出来ました。

これを機に、今後、両国の友好の輪が更に大きく広がる活動へと繋げていきたいと考えています。

（注1　アンクルンとは、竹で作られたインドネシア固有の楽器。2010年ユネスコの無形文化遺産に登録された）

「寄稿者:日本・インドネシア友好協会奈良 会長 小谷 勝彦」

ミルザ・ヌールヒダヤット総領事 あいさつ

コーラスグループ ボーカルマニスによる「インドネシアの歌」

アンクルングループ con brio によるアンクルン演奏「日本の歌」

日本・インドネシア友好協会京都メンバーによる
アンクルン演奏「インドネシアの歌」

本会会員 冨岡三智の
ダンスグループによる「ジャワダンス」

本会会員 岩本洋之による
ハーモニカ演奏「インドネシアの歌」

奈良市・キャンベラ市 姉妹都市提携25周年記念事業（2018年10月24日～29日）

奈良市とキャンベラ市は、平成5年10月26日に姉妹都市提携を締結、昨年は提携25周年を記念して、奈良市の行政団一行は、なら燈花会の会のメンバーや奈良商工会議所青年部メンバーを含む市民団と共にキャンベラ市を訪問しました。

キャンベラ空港では、カリーン小学校の子どもたちによる日本語と英語の歌の合唱で出迎えられ、在豪州日本国大使館歓迎レセプションでは、草賀特命全権大使やアンドリューバーACTチーフミニスター、仲川市長による挨拶の他、奈良市内にある四蔵元の地酒の振る舞いや日本舞踊、包丁の銘切り、割箸製作のデモンストレーションを実施し、ACT政府関係者や姉妹都市委員会、豪日協会、日本食レストランの代表者など、大勢の方々にお喜びいただきました。（ACT:Australian Capital Territory）

なら燈花会の会による学校訪問では、当会メンバーによるなら燈花会のプレゼンテーションを行い、日本語を学習している生徒たちとの交流を図るほか、キャンベラ奈良平和公園で開催されたキャンドルフェスティバルでは、持参した燈花会カップ1,000個を用いて、両市を代表する鹿とカンガルーの記念アートを施すことで、奈良市とキャンベラ市との親睦を深めました。同フェスティバルでは、仲川市長、東久保議長、アンドリューバーACTチーフミニスター、草賀特命全権大使が平和の鐘を5回鳴らし、世界平和を祈願しました。

奈良市とキャンベラ市は、地理的距離は遠く離れていますが、今回の訪問を通じて今まで以上に心の距離が近づきました。またキャンベラ市民の皆さまに、奈良市との姉妹都市関係を再確認していただくとともに、新たな市民交流も生まれました。今後も交流の促進に努めて参ります。

空港で出迎えていただきました

平和の鐘を鳴らす仲川市長

なら燈花会の会によるプレゼンテーション

奈良市・キャンベラ市姉妹都市提携25周年記念コンサート（2018年10月5日）& サイエンスサーカスJapan ツアー in 奈良（2018年10月27日、28日）

10月には、キャンベラ市の高校生で構成されるACTシニアコンサートバンドのメンバーを迎え、一条高等学校や奈良大学附属高等学校、飛鳥中学校、都祁中学校の吹奏楽部の皆さまと各学校・なら100年会館で合同コンサートを開催し、音楽を通して交流を図りました。

また、オーストラリア国立科学技術センター(クエスタコン)によるサイエンスサーカスが、大阪市立科学館とオーストラリア国立大学の協力を得て市内学校や奈良市役所の正庁で開催され、30を超える科学体験型展示やサイエンスショーを通して交流していただく場となりました。

100年会館コンサートで演奏する学生たち

科学体験型展示で遊ぶ子ども

体験参加型のショーにより
科学の不思議を探る子どもたち

フレンドシップス 第29号 二〇一九年三月三一日発行 奈良市国際交流協会事務局
〒六三〇－八五八〇 奈良市二条大路南一丁目一番一号 奈良市役所 観光戦略課内
TEL/FAX 0742-34-1965 E-mail:kankousenryaku@city.nara.lg.jp